

## ■いじめ発見のチェックポイント(学校用)

いじめへの対応で大切なことは、いじめの兆候に早く気づき、早期に対応を図ることです。学校で注意しておきたい「いじめのサイン」としては、次のようなものがあげられます。

### 学 校

教師は、一人一人の子どもが救いを求めて発する小さなサイン(言葉や表情、しぐさ)を見逃さずに、早期に対応することが大切です。

#### 朝の会

- 遅刻・欠席が増える。
- 始業時刻ぎりぎりの登校が目立つ。
- 表情がさえず、うつむきがちになる。
- 出席確認の際、声が小さい。ぼんやりしていることが多い。
- 持ち物が紛失したり、落書きされたりする。

#### 授業開始時

- 忘れ物が多くなる。
- 用具・机・椅子等が散乱している。
- 周囲が何となくざわついている。
- 一人だけ遅れて教室に入る。
- 席を替えられている。

#### 授業中

- 頭痛・腹痛を頻繁に訴える。
- 保健室によく行くようになる。
- グループ分けで孤立しがちである。
- 正しい答えを冷やかされる。発言すると周囲がざわつく。
- テストの成績が急に下がり始める。テストを白紙で出す。

#### 休み時間

- 教室や図書室で一人でいる。
- 今まで一緒だったグループからはずれている。
- 訳もなく階段や廊下を歩いていたたり、用もないのに職員室に来る。
- 友だちと一緒にでも表情が暗い。オドオドした様子で友だちについていく。
- 理由もなく服を汚していたり、ボタンが取れている。

#### 給食時

- 机を寄せて席を作ろうとしない。
- その子どもが配膳すると嫌がられる。
- 食べ物にいたずらされる。(盛りつけをしない。わざと多く盛りつける)
- 食欲がない。
- 笑顔が無く、黙って食べている。

#### 清掃時

- その子どもの机や椅子だけが運ばれず、放置されている。
- その子どもの机や椅子をふざけながら蹴ったり、掃除用具で叩いたりする。
- 他の子どもと一人離れて清掃している。
- 皆の嫌がる分担をいつもしている。
- 目の前にゴミを捨てられる。

#### 放課後

- 下校が早い。あるいはいつまでも学校に残っている。
- 玄関や校門付近で、不安そうな顔をしてオドオドしている。
- みんなの持ち物を持たされている。
- 通常の通学路を通らずに帰宅する。
- 靴や鞆、傘など、持ち物が紛失する。靴箱にいたずらされる。

#### その他

- 教科書や机、掲示物にいたずら書きをされる。
- 独り言を言ったり、急に大声を出したりする。
- 教師と視線を合わさない。話す時に不安そうな表情をする。
- 宿題や集金などの提出が遅れる。
- 刃物など、危険な物を所持する。

## いじめの問題への取組についてのチェックポイント

学校において、具体的に点検すべき項目を、指導体制、教育相談、教育活動、家庭、地域社会との連携の観点から示します。

### 指導体制

学校組織においては、学校長のリーダーシップの下に、全教職員が一致協力して取り組む指導体制を確立する必要があります。

### 指導体制

学校長を中心に、全職員がいじめ問題の解決に向けて一致協力して対応しているか。

いじめについての研修会を開き、職員間の共通理解を図っているか。

教師と児童生徒、児童生徒間の好ましい人間関係の育成に努めているか。

児童生徒が出すサインを見逃さず、その一つ一つの的確に対応しているか。

いじめについての訴えがあった時、問題を軽視することなく的確に対応しているか。特に、「日頃から問題行動がない」、「学習成績がよい」等の理由から、対応が不十分になっていないか。

### 教育相談

児童生徒の悩みや要望を受け止めることのできる相談体制が機能しているか。

保健室や相談室の機能を十分に生かし、養護教諭や相談員等が得た情報を効果的に活用しているか。(秘密の保持)

教育相談体制が保護者にも十分応えられるようになっているか。

児童生徒の悩みが解消されるまで、継続的な事後指導を行っているか。

必要に応じて、専門機関との連携を図っているか。

学校に配置されているスクールカウンセラーや相談員等が十分機能し、活用されているか。

### 教育活動

全職員がそれぞれの指導場面において、いじめの問題に関する指導の機会を設けているか。

道徳や学活、ホームルームの時間等にいじめに関わる問題を取り上げ、指導を行っているか。

児童会・生徒会活動等において、いじめの問題との関わりで適切な指導や支援を行っているか。

児童生徒に幅広い生活体験を積ませたり、社会性の涵養や豊かな情操を培う活動を積極的に推進しているか。

### 家庭・地域との連携

P T A や地域の関係団体とともに、いじめの問題について協議する機会を設けるなど、いじめの根絶に向けた地域ネットワークづくりに努めているか。

家庭に対して、いじめの問題についての啓発を行うとともに、家庭訪問や学校通信等を通じて家庭との緊密な連携を図っているか。

家庭に対して、生徒指導の基本方針や問題行動への対処、関係機関との連携等について伝えているか。

必要に応じて、児童相談所、警察等の地域関係機関との連携協力を行っているか。

## いじめ発見のチェックポイント(担任用)

直接いじめの加害者・被害者になっていない子どもたちでも、いじめが起きやすい雰囲気  
の学級集団の中にいると心が乱れてくるのが懸念されます。反対に、学級の環境を整備す  
ることで、子どもたちの心が豊かになり、温かい人間関係を築くことが可能になってきます。

ここでは、学級担任として、日々の学級経営を見直す際のチェックポイントを示します。

### 担 任

子どもたちは、学校のすべての場で学んでいます。学校全体の方針のもと、学年  
等で情報交換を密にし、教職員同士が互いに高まり合いながら学級経営を見直し  
ていく必要があります。また、学級をチェックする時期やチェックしたことの生かし  
方を考えるなど、見通しを持つことも大切です。

### 教 師 の 言 動

子どもの言い分に耳を傾けている。  
子どものよさを見つけようとしている。  
人に迷惑をかける行動には、毅然とした態度で対応している。  
えこひいきや差別をせずに子どもに接している。  
やたらと競争意識をあおったり、個人の責任を集団に押しついたりするこ  
とがない。  
個人のプライバシーを守っている。  
一日に一回は会話をするなど、どの子どもともかかわり合いをもっている。

### 授 業 時 間 ・ 学 級 活 動

わかりやすい授業、充実感のもてる活動が行われている。  
どの子どもの発言にも、全員が耳を傾けている。  
困ったことを話題にし、本音を出して考え合うムードができています。  
朝の会、帰りの会が内容豊かで、生き生きと運営されている。  
リーダーに協力する支援体制ができています。  
係が積極的に活動し、新しい試みを取り入れようとする。

### 日 々 の 生 活

誤りを認め、許し合えるムードがある。  
教室に笑い声が響き、明るい雰囲気がある。  
学級の小集団が閉鎖的でなく、互いに交流がある。

### 他 者 と の 連 携

学年会や他の会議で、子どもの様子を情報交換できる場が確保されている。  
日頃から、子どもや学級の様子を気楽に話題にできるムードがある。  
学年だよりや学級だよりなどで、学年・学級の取組の様子が保護者に理解  
されている。  
日頃から、個々の子ども様子を保護者と連絡し合えるシステムが確立さ  
れている。

## いじめ発見のチェックポイント(家庭用)

いじめへの対応で大切なことは、いじめの兆候に早く気づき、早期に対応を図ることです。家庭で注意しておきたい「いじめのサイン」としては、次のようなものがあげられます。

### 家庭

保護者から、子どもの家庭の様子について以下のような相談があったら、いじめられているのではないかと受け止め、指導に当たる必要があります。

衣服の汚れや破れが見られたり、よくけがをしたりしている。  
風呂に入りたがらなくなる。裸になるのを嫌がる。(殴られた傷跡やあざなどを見られるのを避けるため)  
買い与えたものが紛失したり、壊されたり、落書きされたりしている。  
家庭から品物やお金を持ち出したり、余分な金品を要求したりする。  
食欲が無くなったり、体重が減少したりする。  
寝付きが悪かったり、夜眠れなかったりする日が続く。  
激しい口調の寝言や助けを求める寝言を言ったり、うなされることが多くなる。  
表情が暗くなり、言葉数が減る。  
いらいらして反抗的になったり、急に口数が少なくなって元気がなくなる。  
部屋に閉じこもりがちになり、ため息をついたり、考え事をしたりする。  
言葉遣いが荒くなり、親や兄弟に反抗したり、ベットをいじめたり、物に八つ当たりする。  
親から視線をそらしたり、家族から話しかけられることを嫌がったりする。  
刃物など、危険な物を隠し持つようになる。  
登校時刻になると、頭痛・腹痛・吐き気などを身体の不調を訴え、登校を渋る。  
学校を早退したり、用事もないのに帰宅時間が早くなったり遅くなったりする。  
転校を口にしたり、学校をやめたいなどと言い出す。  
親しい友人が来なくなり、見かけない者がよく訪ねて来る。  
不審な電話や、嫌がらせの手紙・メールがくる。友人からの電話で急な外出が増える。  
自己否定的な言動が見られ、死や非現実的なことに関心を持つ。  
投げやりで集中力が無くなる。ささいなことでも決断できない。  
テレビゲームなどに熱中し、現実から逃避しようとする。  
急に学習時間が減ったり、宿題や課題をしなくなったりする。  
急激に成績が下がる。

## いじめ発見のチェックポイント(6月・11月用)

いじめには、上級生による下級生へのいじめなど、弱者に対する攻撃としてのいじめがあるほか、学級集団など限られた人間関係の中だからこそ発生しがちないじめもあります。

昨今発生しているいじめは、この身近な集団内におけるいじめが多くを占めています。この身近な集団内でのいじめは、特に6月と11月頃の二つの時期をピークに発生しています。

6月は、進学・進級で新しい学級になって、集団内の互いの力関係や個性が少しずつ理解できてきた時期にあたります。一方11月は、1学期に一度形成された人間関係が変化する時期で、それまでのリーダーがいじめのターゲットになったり、仲良しグループ内でいじめが発生したりする時期となります。この二つの時期を中心として、学級や子どもの様子を観察することも大変重要です。

### 時 期

学級内の子どもたちの人間関係は、それぞれ独自のものがあります。それぞれの特徴を見極め、理解しておくことが大切です。また、いじめは、何の兆候もなく起きるものではありません。日頃から、子どもや学級集団の小さな変化を見逃さないことも重要です。

### 六 月 の ポ イ ン ト

学級の生活のルールが守られているか。

わがままで無責任なタイプの子どもに対して、適切な指導がなされているか。

おとなしく、活動的でない子どもの様子に目が向けられているか。

子どもの活躍、またはトラブルの原因把握を通して、子どもに対する理解が深まっているか。

### 十 一 月 の ポ イ ン ト

学級のリーダーが固定していないか。

リーダーに対して、他の子どもは協力しているか。

仲良しグループの構成に変化が見られないか。

教師への接し方や表情などに、大きな変化を見せている子どもはいないか。

(参考文献)

- ・児童心理編集部「いじめ対応と予防読本」 金子書房
- ・「いじめ対策必携」 鹿児島県教育委員会